

令和3年度第1回公立大学法人長野県立大学評価委員会

日 時：令和3年7月20日（月）

13時33分～15時35分

場 所：県庁本館8階 審問あっせん室

公正な評価のため、評価に関わる部分の発言は●●委員と表記しています。

1 開 会

○村上高等教育振興課長

ただいまから、「令和3年度第1回公立大学法人長野県立大学評価委員会」を開会いたします。

私は、事務局の村上と申します。よろしくお願いいたします。

それでは最初に、県民文化部の中坪部長より御挨拶を申し上げます。

2 挨 拶

○中坪県民文化部長

中坪でございます。本年度第1回目の公立大学法人長野県立大学の評価委員会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から長野県政の推進に当たりまして、格別の御尽力、御協力をいただいております。重ねて御礼を申し上げます。

委員の皆様には、県立大学設立以来、県立大学の中期計画の達成に向けまして、幅広い視点から貴重な御意見、御提言を賜っております。深く感謝を申し上げます。

今回評価をいただきます昨年度の大学運営につきましては、申し上げるまでもございませんけれども、新型コロナウイルス感染症への対応ということで、大学の特色であります海外プログラムについてもオンラインで実施したり、1年次の全寮制についても入寮制限をかけざるを得ないということで、常に感染対策を強く意識しながら、その中でもできる限り教育効果を高めたり、あるいは学生生活も充実できるようにということで行われてきたところでございます。

これから9月にかけて、本日を含めて3回の委員会の中で評価をまとめていただくことになってまいりますけれども、県といたしましては、引き続き委員の皆様のお意見を賜りながら、大学の教育・研究、あるいは地域貢献などの取組を一層進めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

これから非常に短いスケジュールの中で評価をお願いすることになりますけれども、どうぞよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

○村上課長

それでは、出席者について御報告をいたします。本日、伊藤委員が所用につきまして御欠席となっております。5名中4名の委員の皆様のお出席でございます。

それでは、以後の議事の進行を山沢委員長にお願いしたいと思いますので、よろしくお

願います。

3 協議事項

公立大学法人長野県立大学の令和2年度(2020年度)業務実績について

○山沢委員長

それでは、本日の議事に入ります。

本日は、令和3年度の最初の評価委員会ということでございます。法人からの提出がございました令和2年度の業務実績報告書に基づきまして、各委員におかれましては、本当に忙しいところ、小項目評価を短い時間でしていただきましてありがとうございます。本日は、各委員からいただきました評価を基に、小項目評価の方向性について議論をいただきたいと考えております。

資料2に業務実績評価に関する基本方針がございまして、これにより評価委員会として評価を付けていきたいと存じます。皆様よろしくお願ひ申し上げます。

では、委員の皆様のお手元には、各委員の評価及びコメントをまとめた集計表をお配りしてございます。最終的な評価結果報告書や参考資料においては、個別委員の評価は公表されず、委員会としてまとめたものが評価となります。

なお、委員の皆様のご個別評価を記載した集計表は、評価の議論の参考としていただくものでございます。委員の皆様のお手元のみとさせていただいておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

小項目評価について検討を始めたいと思います。「教育」から始まりまして、11の大項目がございまして、93項目ございまして、今日はできましたら60ぐらいまでと考えております。時間を端折るつもりはございませんので、きっちり評価をお願ひ申し上げます。

ポイントは、評価が一致する場合はよろしいわけでございますが、分かれている場合には、その評価をなさっている方の評価結果についてお考えをお聞きして、皆で討議をする形を考えております。これは、前年と同じような方法でやりたいと思います。

個々の評価は2回で終わらせたいと思っております。従いまして、今日やりました残りの小項目の評価と、大変貴重なコメントを書きいただいておりますので、このコメントをどう扱うかということも、次回以降にきちんとやりたいと思います。

それでは、最初に少し複雑な集計表でございまして、事務局から御説明をいただきます。よろしくお願ひします。

○村上課長

皆様のお手元にある集計表ですが、一番左側に小項目の通し番号、これが全部で93あります。そしてその通し番号に丸が付いているものにつきましては、法人の評価と各委員の皆様の評価が異なっているものでございます。その異なっているものが、数えますと93項目中32項目ございまして、そのあたりを中心に御議論をいただくことになろうかと思っております。

そして、一番右に委員長評価(案)とありますが、これが現時点で既に法人の評価と各

委員全ての評価が一致しているものにつきましては、その評価を入れさせていただいております。

それでは、順次評価のほうをお願いしたいと存じます。委員長、お願いします。

○山沢委員長

ありがとうございます。

それでは、評価シート、委員集計表に基づきまして、小項目ごとに順番に確認を行って、意見交換をしたいと思っております。よろしく願いいたします。

まず、1ページ1、小項目1でございます。これは、全員aの評価です。特に評価委員のコメントもございません。ということで、こういう場合には、委員会の評価としてはaでよろしいのではないかと。コメントは今のところはなしということでございます。

このように進めたいと思っておりますが、まず、進め方はよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○山沢委員長

それでは、ただいまの小項目1の評価aは、特に御意見がなければ、これで確定したいと思います。

次は小項目2、これは学長と新入生のオンライン個別面談ということです。評価は、私と●●委員はs、●●委員から、「コロナ禍においてもオンラインで個別面談を実施されており、丁寧な対応が図られている」というコメントをいただいております。ということで、2対3で、多数決ですとaになりますが、●●委員、どうですか。

○●●委員

私はこれはsにさせていただければありがたいと思っています。これは、もう評価が3回目になります。一番最初はsだったんです。去年どうしてaだったかよく分からないのですが、同じことをやっていけば下がってってしまうのか、去年も多分その辺が問題になったと思います。同じいいことをやっていても、それ以上にやらなければいけないのはなかなか難しい問題になると思うので、これは大変な御努力をいただいておりますので、最初はsだったので、また戻していただいたらいかかかと思っております。

○山沢委員長

●●委員、どうですか。御意見いただけますか。

○●●委員

基本的な計画としては、学長との個別面談を実施するということで対応されたのだと思いますが、例えば、ハイフレックスで授業をやるとなると、教材をつくり直したり、新しいシステムをつくらなければいけないという意味で、オンラインに変えるのはかなりの努力が要るのですが、個別のミーティングで対面をオンラインにするのは、7月の時点ではもう既にシステムを入っているということなので、つまり、オンラインを入れたということ自体が、aをsにする理由になる入れ方ではないかと私は判断しました。

そういう意味では、オンラインに変わった形で丁寧な面接が実行されたんだということで、昨年同様 a という判断にしております。

もし、例えばこれを s にするというのであれば、オンラインならではのコミュニケーションの何かでこういう工夫が図られたみたいなのが、もう一つ要るのかなという印象を持っておりまして、そこについて特段の記述がなかったの、要するに対面をオンラインに変えたということだろうということで、a とさせていただきます。以上でございます。

○●●委員

これはオンラインに変えたとかそういうことではなくて、本来面接をやったということの評価しているわけです。オンラインでやったのは、たまたま去年そういう手段を取らざるを得なくてやったということだけで、オンラインにしたかどうかということ、私は s にする理由にしてはしません。最初から直接面談を全学生にやるということは、なかなか大変なことだと思います。ほかの学校でやっているかどうかは分かりませんが、そういうことで、これは元々 s ではないかと思っています。去年、私も個人的には s を付けたと思います。

○山沢委員長

●●委員、いかがでしょうか。

○●●委員

私は、初年度これは称賛に値するというので s にしたわけです。前年度は a 評価にしたと。法人の評価も a だったわけです。少人数ですからできたということもあると思うのですが、学生が学長とのオンラインの面談というのは、直接も対面も含めて感激に尽きると思います。

しかし、これで3年目を迎えて、その効果の検証がされていないんですね。それがあれば、私はそれを評価したいと思いますが、学生がこれをどの程度評価しているのか。それからフォローアップの状況が分かりません。●●委員が言われたように、オンラインの授業をやっていれば s ということではないので、私は a だろうと思います。

○山沢委員長

ありがとうございます。

今、a の理由を●●委員と●●委員からお聞きしました。私個人としましては s としましたけれども、ただいまの御意見を聞いて、a に変えてもよろしいかと思っています。●●委員、いいでしょうか。

○●●委員

構いませんけれども、評価については、s が付いたものを次の年もやっていけば s か a かと、そういう基本的なところをよく考えていかないとこういうことになってしまうのではないかと思います。

○山沢委員長

そこの指摘は入れておきましょう。

ただいまの●●委員の指摘をコメントの中に入れることを考えたいと思います。同じことをやっていればという話になるかと思えます。ということは、裏を返すと、●●委員も●●委員もおっしゃっているように、学長が自分のやっていることをどう評価しているのか、そこも今後は付けてほしいということで、評価をaとさせていただきます。

次は小項目3、授業にディスカッション、ディベート等を含むようにした主体的な参加ということです。全員aですので、a評価としたいと思います。

次は小項目4、1年次通年必修の「発信力ゼミ」です。これも評価は全員aでということで、aの評価です。

小項目5、3年次通年選択の「グローバル教養ゼミ」のことです。これも法人の評価がaで、委員全員aという評価ですので、この三つ、小項目3、4、5は委員の評価が全員同じということでaとしたいと思います。

次は3ページです。小項目6、少人数による必修の英語の授業です。評価は●●委員を除いて全員aです。bの●●委員のコメント及び御説明を簡単にお願ひできますか。

○●●委員

英語については、非常に点数が低いです。ここの項目でないところでは、そこはbやcを付けてあります。英語はいずれにしても点を取るのが目標です。少人数にすることが目的ではないのです。そういう意味で、去年も25人で少しオーバーしたということでしたが、25人だと、基本的に英会話教室なんかは大教室ではできないです。その辺をきちんと見直さないで、ただ25人でやったやったと言っているのはaとは言えないと私は思っています。

○山沢委員長

●●委員、いかがですか。私も実は同じ考えで、コメントに書いていますが、いろいろ工夫はあると思います。ただ、人数を25人でやればいいと、クラス分けもどうやっているのか分からないところがあったりして、評価としてはaでとどめておきました。

そういう意味では、少し辛口のコメントを、今の●●委員の意見にありましたことも含めて言いたいと思います。評価としては、平均的に一応aになりますが。

○●●委員

実際のリソースを考えると、予算もあって25人がギリギリだという判断もあるのかもしれないのですが、実際に英語力を高めるとい場合に、先ほど御意見も出たとおり、どういうふうにクラス分けをしているのかと。

例えば、リスニングとスピーキングとリーディングで得意・不得意分野があるので、それぞれでクラス分けを変えたり調整したり、同じ英語の科目の配置の仕方を変えたり。

県立大学の場合は恐らく独自のプログラムを導入されていて、今のプログラムをつくらせて25人が妥当というあたりを、もう少し説明を明確にさせていただくようなコメントを添

えた上で、aという判断はありかと思いました。

○山沢委員長

●●委員、よろしいですか。今、●●委員がおっしゃった25人の妥当性はどこにあるかということも、次回は説明していただこうと。

○●●委員

一言言うなら、小項目6で突飛に出てくるんですね。英語についてはまとめて評価をしていって全体像が見えるようにしないと、ここに急に突飛に出てきて、また最後のほうでcが出てくるので、一つのことをやるので、全部同じ目的に向かっていくので、その全体でやったことがいいかどうかを判断しないと駄目じゃないかと私は思います。

○山沢委員長

では、ただいまの意見をきちんと汲み取った形でコメントを付けるということで、aという評価にしたいと思います。

次は小項目7、グローバルマネジメント学科、食健康学科、こども学科、それぞれ進路に応じた丁寧な履修指導等を行うということです。将来の進路を考えた上で履修指導をしているということで、aという評価です。これは全員aで、コメントもないのでaでよろしいですね。

次は4ページ、小項目8、グローバルマネジメント学科はどうしているかということです。委員は全員a、法人もaという評価です。一つ●●委員からコメントがありまして、全員が履修したのかと、履修の状況は事務局でわかりますか。

○村上課長

調べておきます。

○山沢委員長

お願いします。これは事務局方が調べた後で、そうでないようだったら、そこをコメントにしたいと思います。よろしくお願いします。ということで、評価はaです。

次は小項目9、食健康学科の2・3年次の臨地実習の設定をオンラインで行ったということです。オンラインによる実習は随分工夫されて、苦勞が想像されましたが、この辺はいかがでしょうか。

この間のヒアリングで、海外プログラムのオンラインスケジュールはきちんと出していましたが、多分それに似たようなもので実習も出ていたと思いますが、これは皆さん同じで評価はaとしたいと思います。

○事務局

この前の法人ヒアリングの回答で、オンラインでの実習は保健所の実習のみということで、質問シートの2ページ目の一番頭に書いてありますが、あとは対面式で施設に行くと伺っています。

ですので、必要な実習の時間数は確かに取っていますが、一部保健所の実習だけ対面ではできていなかったのも、山浦委員の500時間の実習に届くかということ、対面でやったということでは足りないのですが、補完はされていると御理解いただければと思っています。

○山沢委員長

では、ただいまのようなこともございますので、評価はaということで確定したいと思えます。

次は5ページ、小項目10、こども学科の話です。これは全員aの評価です。従いまして、委員会としては評価aとしたいと思います。

次は小項目11、これは1年次の学生に対して、2年次の海外プログラムに向けた意識づけをさせるということです。委員全員aの評価です。aでよろしいですね。

次は6ページ、小項目12です。2年生を対象にした海外プログラムをオンラインでやったということです。大学の発表では、きちんとしたスケジュール表を出して、3月15日から26日までの2週間、朝から夜まで、海外プログラムとしてのオンラインのスケジュールがきちんと載ってしまっていて、きちんとやっている感じです。こちらでは午前9時から午後4時ですが、向こうの時間に合わせると午後1時から夜8時という時間の差もあったのですが、物ともせず、きちんと実施されています。●●委員は「？」ですが、御説明をいただけますか。

○●●委員

昨年度、こういった海外プログラムをどのようにオンラインで実施をするかというのは、結構どこの大学も模索をしていて、いろいろな取組を入れられたんです。このタイムテーブルは理解したのですが、結局オンラインプログラムの中で海外プログラムに匹敵する成果を上げるために、どういう準備や対応をされたのかがよく分からなかったのです。

こういうことをやったよというのは分かるのですが、こういった形で海外プログラムに匹敵する成果を上げる取組を仕掛けとして入れられたのかが見えにくかったのも、どのように評価していいかが判断に苦しんで、今保留という感じになっています。

○山沢委員長

ありがとうございます。

○村上課長

事前・事後の学習をどの程度やっているかを含めて次回までに。

○事務局

大学と直接ヒアリングします。

○山沢委員長

今の仕掛けの話も含めて、大学側に問い合わせまして、次回第2回のときに御報告します。それをお聞きいただいて評価をいただくということで、全体の評価を決めたいと思

ますけれども、それでよろしいですか。

○●●委員

ありがとうございます。

○山沢委員長

次は小項目13、海外プログラムの事前準備です。ここは委員全員aの評価ですので、評価aとさせていただきます。

次は7ページ、小項目14、CALLシステムの利用です。●●委員のコメントで、結果が出ていないということで、簡単に御説明いただけますか。

○●●委員

それだけです。700点以上を目指すとして書いてあるけれども、年度計画には英語力を向上させるとありますが、向上したのかしてないのか評価にも書いていないし、結果的にも全然駄目だし、CALLシステムを入れるのは物理的なことであって、そんなことはやればすぐできてしまう話で、それをa評価はいかがなものかと思っただけです。aでもいいです。

○山沢委員長

これも一応聞いてください。これはもう点数が出ているからすぐ分かります。ただいまの小項目14も、●●委員が御指摘のように、点数が出ているはずですから、聞いて確認をしてということで、次回に判定したいと思います。

次は小項目15、これは委員全員がaです。私のコメントがありますが、あってもなくてもどちらでもいいので、コメントのときに外したいと言うつもりです。では、aということでお願いします。

小項目16、言語教育センターでの図書購入、オンラインによるTOEIC対策講座を実施した、32人受講ということです。一応皆さんaです。従いまして、評価はaでよろしいかと思えます。コメントですが、●●委員から、32名というのは何の32名かと。

○●●委員

多いのか少ないのかよく分からないので、評価ができません。

○山沢委員長

一応aが付いているのですが、コメントのところに32人の意味を聞くのを入れたいと思います。よろしくをお願いします。

次は8ページ、小項目17、TOEIC600点以上を最低到達目標とするとともに、さらなる向上を促し、平均700点以上を目指すということです。法人評価としてはいろいろ書いてあって、うまくいっていないわけですね。法人評価はcです。●●委員はdの評価、●●委員はbの評価、●●委員と●●委員はcの評価ということでいろいろいただいています。

●●委員、御意見をお願いします。

○●●委員

コメントに書かせていただいたとおりですが、学校側の努力・成果は、後の説明資料をいただきまして、底上げについては堅調だったと思います。また、全国、あるいは他大学との比較においても、学生が劣っているとは認められない、むしろ優っていると評価できると思います。しかし、中期計画との対比で我々が判断すると、来年4年度で中期計画の達成状況について判断をくださなければいけないのですが、3年間通してcというのは、今回含めると達成できていない段階です。やはり見直す必要があるだろうということで、dという厳しい評価を付けています。

我々の評価基準は、c評価は80%未満ということですが、37.4%ということは、80%に対して半分にも達していないということです。これはcではないのでdにせざるを得ないということです。

○山沢委員長

ただいまのお話ですが、中期計画そのものの見直しを考えなければいけないのではないかとこの観点も含めてのdという評価とお聞きしました。dというのはいかがでしょうか。

○●●委員

中期計画と比べればdだろうなとも思います。cかdがよく分からない、同じようなものだと思ってcと付けたのですが、●●委員も抜本的な見直しと書いてありますし、私も抜本的な改革と書いてあります。前回の質問のときにも、金田一先生が、そうはいつでも高いレベルで努力していきたいと、目標自身は変えたくないとおっしゃったので、私は力強い言葉をいただいて非常に良かったのと、それで頑張ってもらいたいと思っていますが、いかんせん、先ほど見てきたいろいろな施策が、みんなやったとなっていてこういう状況です。そこを問題視しないといけないので、もっと違うやることを考えないと抜本的な改革にならないし、伸びるようなことはないと思います。ここ3年やってきたのですから。その辺のところをやっていただいて、高い目標をクリアするということが努力をしていただくことでよろしいのではないのでしょうか。

○山沢委員長

ということで、●●委員、いかがでしょうか。cの評価ということで、一つ段階を上げていただいて、ただし、コメントは厳しく付けさせていただきますので、cということで御賛同賜るわけにはまいりませんか。

○●●委員

私も大学のその後の説明や追加資料等を拝見してcでもいいかとは思いますが、来年、中期計画の達成状況を見通した評価をするときにどうなるのかと。達成できないと見込まれるので、そのときどうするのでしょうか。おっしゃられるように、私はcでも構わないですが、大学側の対応を求めたいと思います。

○山沢委員長

今おっしゃった評価委員としての疑問ですが、私も本当にそう思います。そこもきちんとぶつけたコメントにしたいと思います。評価委員は全然そんなことを心配していなかったのかと言われても困りますので、そこは委員が御発言したことをきちんと大学側にも分かっていたかのようなコメントにしたいと思います。

ということで、cでいかがでしょうか。●●委員、cでよろしいですか。●●委員は、そこに書かれているコメントとともに、一番御心配されているのは、中期計画そのものを見直さなければいけないのではないかと、そういうお考えで、それをきちんと分かってもらうためにdの評価としているという御意見でした。

●●委員もそういうお考えでございますので、ここはcという評価にさせていただきまして、評価委員会のコメントとして、今申し上げました中期計画の見直しまでになるような、そういう低い評価になるということを、大学側としてはどう考えているのか。そこを令和3年度中にはきちんと対応するようにしないとまずいのではないかと、それを書こうということで、cの評価をこの委員会の決定としたいと思うのですがいかがでしょうか。

○●●委員
結構です。

○山沢委員長
ありがとうございます。

○山沢委員長

次は9ページ、小項目18の英語集中プログラムの話です。これは委員全員aの評価ということですので、委員会としてもaとしたいと思います。

次からは入学者の受入れです。小項目19、ホームページのリニューアルです。評価はaですので、委員会としてもaとしたいと思います。●●委員のコメントが、その結果としてアクセス数は増えているのか、公表したのかとなっていますので、ここはぜひ大学に聞いて、コメントの中にもきちんと入れるようにしたいと思います。

次は10ページの小項目20、広報の基本的な考え方です。委員全員aという評価ですので、委員会としてもaとしたいと思います。私のコメントは、元年度は学長の高校訪問は行わなかったのですが、令和2年度は頑張ったのでいいかなということで、aにしました。●●委員は厳しくて、「結果的に入学者のレベルは向上したのか」と聞いていまして、どのような高校を訪問したかもちゃんと書いてくれと。

○●●委員
どこかに17校とか書いてありましたね。どういう学校へ行ったのか興味がある。

○事務局
それは調べます。

○山沢委員長

次は小項目21、大学入試選抜改革に伴う変更のいろいろなことです。コロナ対応も含まれています。大学も評価aですが、委員も全員評価aです。従いまして、委員会としても、評価はaとしたいと思います。

山浦委員から一つ質問がございまして、コロナだからオンラインで面接したり、学力検査を見送ったのか、本来はどのようにするのか、入学者選抜の検証の結果はどうかという本質的な問題の道筋がここには書いていないのではないかという御意見だと思います。この辺も聞いてください。

○事務局

本来の姿は二次試験で学力検査を個別にやっておりますが、昨年度はコロナのため、一次試験は共通テストだけで採点したということです。

○山沢委員長

では、評価はaです。

小項目22、編入学です。ここは委員全員aで、コメントはないということで、委員会としても評価をaとしたいと思います。

次は11ページ、23、単位互換についてです。●●委員がbで、あとはaです。●●委員、簡単にコメントのところを御説明していただけるとありがたいです。

○●●委員

単位互換制度はいいのですが、つまり、他大学と連携してどういう成果を求めようとしているのかがよく分からなかったのと、そのこととの関係で、何で指定された2科目が選ばれたのかがよく分からなかったです。まずは引き受けてくれそうな先生のところから2科目決定して始めているのか、そのあたりのところや運営方法、戦略がどう考えているのか見えないまま取りあえずやってみたというので、大丈夫かというところでbにしました。

そういう意味では、走りながら考えようということでは始められたということであれば、一歩前進はしているので、全体としてa評価とするということについては構わないです。ただ、個人的にはよく分からなかったのがbにしています。

○事務局

これは、法人ヒアリングのときの大学からの回答で、取りあえず2科目が言語学Iと、グローバルマネジメントの経営組織論です。他の大学の学生が興味を抱くようなところから選んだということだそうです。ただ、これはまだ試行的に始めているということで、今後は、現在のオンデマンドの資料を整理して、令和4年度以降の提供を目指していきたいと考えているということです。

○山沢委員長

どうも暫定的なようですね。実は私も、信州大学の学部長のときにこの講義をしたことがあります。工学系の大学は公立諏訪東京理科大学があるのですが、そういう中で、私が

エネルギーの話を受けたので、新エネルギーの話をしました。その理由は、他の大学でやっている者がいないからやったらどうだということで、街中で場所を借りて、自分の大学以外の大学のいろいろな学生が集まって聞いてくれるというものです。

ですから、今の状況ではこれから始めるというので、県立大の一番得意な分野で他の大学にそのような講義をする人がいないような、かつ、比較的にみんなに分かりやすい内容のものこれから絞っていくのではないかと思います。

今は、●●委員がおっしゃるように、手を挙げさせるか、学長が命令して決めたのだと思います。この後はちゃんとやっていくと言っていますので、大丈夫かと思っています。

○●●委員

言語学1というのが挙げているのがよく分からなかったんです。何か街中で単位互換でこういう人たちを集めたいという戦略という意味では、最初一発目はこの科目だよと打ち出す科目は結構重要かと思うのですが、そこで言語学Iが挙げているのは、何をやりたかったのだろうと、ひょっとしたら魅力的な中身かもしれないのですが、少し不思議な感じがしています。

○山沢委員長

次回までに聞いておいてください。

○事務局

分かりました。

○山沢委員長

評価としてはaでよろしいですね。

次は24、教育の質の向上、成績評価のGPA制度の利用ということです。bが多いのですが、●●委員はa、●●委員は「？」でいただいています、ここは。

○●●委員

コメントに書いたとおりで、法人評価がどういう判断でbにされたのか、事前の説明を聞いていなかったのもので申し訳ありませんでした。

○事務局

GPAの計算はしたけれども、具体的な授業の改善につなげることがまだ不十分だからという回答です。

○山沢委員長

b評価の理由は、GPAを用いての授業内容、方法等の改善につなげることが不十分であったためですということですね。GPA制度で点数が出てきますが、それをもってどう学生に履修指導をしていくか、学生が伸びるように学習指導をするかはなかなか難しい話です

ね。そういうのがGPA制度でできるのかもよく分からないですが。県立大はそれでやると言っています。bの評価でいかがでしょうか。

○●●委員
大丈夫です。

○山沢委員長
では、委員会としてはbと評価させていただきます。
次は12ページ、25、全員aですので、委員会としては評価をaとしたいと思います。
次は26、授業にディスカッション、ディベート等を含めることにより学生の学びの意識を高め、授業理解の深化を図るということです。いろいろアプリを使ったりするということですね。委員の評価は全員aですので、委員会としては評価をaとしたいと思います。
次は27、大学院設置基本構想を県に提案したということです。大学側はsの評価です。aとsが分かれているところです。●●委員、やはりsですか。

○●●委員
これは私も悩んだんですけども、恐らく大学としては、構想を県へ提案するというのが、認可申請まで行ったということで、それよりも先に行ったからsという判断をされたのだと思うのですが、それを汲むのか、基本的にはそのプロセスを経て進めているということだという判断でaにするのもありだと思うので、そこは考え方だと思いますので、私としてはどちらでも構わないです。

○山沢委員長
ありがとうございます。●●委員はsですか。

○●●委員
法人もsですし、順調に行ったのでsでいいという感じです。

○山沢委員長
逆に順調に行かなかったらえらい騒ぎだと思っていて、行って当たり前だと思っていたんですが。

○●●委員
そう言われればそうですが。

○山沢委員長
今、私と●●委員と意見が違うので、どうしようということで私は悩んでいるのですが、いかがでしょうか。ここは●●委員、申し訳ございませんけれども、多数決で評価をaとさせていただきます。
次は13ページ、28、FD・SD研修です。毎回出席が悪かったりしたのですが、100%出席

したということで、法人はsを付けてきました。御出席の皆さんはsということで、委員会評価としてはsとしたいと思いますが、よろしいですね。

次は14ページ、29、学生に対する授業改善アンケートに関することです。委員評価は全員aです。コメントも付いています。一応委員会評価としてはaとしたいと思いますが、特にコメントで山浦委員、教授の個人別の評価を本人は知っているのかということですが。

○山浦委員

知っているんですよね。

○事務局

フィードバックされていると聞いております。

○山浦委員

これと教員評価との関係はどうなっているかを聞きたいです。

○事務局

そこは聞かないと分かりません。

○山沢委員長

そこはなかなか公表しないと。この後教員の評価のところでも私も言いますので、山浦委員、そこで話をしましょう。

●●委員、コメントのところを御説明いただけますか。

○●●委員

各担当の先生方に今後の方策を検討するという法人の評価でしたけれども、追加質問で、いわゆる改善策を作成させて学部長がチェックし、指導主任がフォローアップをしているという説明があったので、私はaにしました。

○山沢委員長

ということで、コメントをちゃんと付けた形でaの評価としたいと思います。

次は学生への支援になります。

○村上課長

この学生への支援は31から始まるので、30は、その前の教育の質の向上の最後だと思います。これは誤植です。申し訳ございません。

○山沢委員長

ということで、30は(3)の教育の質の向上の最後の項目です。FD研修の一環として授業参観についてです。委員会としてはaの評価としたいと思います。

31からが(4)学生への支援です。全寮制の話で、委員全員aの評価ですので、委員会

としても評価はaとしたいと思います。

次は16ページ、32、象山未来塾です。評価は全員aですので、委員会としてもaの評価としたいと思います。

次は33、寮生の自律的な生活ルールを定め実行していくためのユニットリーダー会議を開催していろいろやっているわけですが、コロナ禍に対応してどうしたかというところ
です。委員会としてはaの評価としたいと思います。よろしいですね。

次は34、レジデント・アシスタント、RAについてです。これは委員全員aですので、委員会としてもaの評価としたいと思います。

17ページ、35、寮生の地域との連携、交流をつなぐ取組を、ソーシャル・イノベーション創出センターやキャリアセンターで推進しているということです。法人としてはsの評価です。●●委員と●●委員はaの評価になっております。

それから、コメントとして●●委員から、「地域と結びついたプログラムの運営や学生の起業につながっている点は高く評価したい」ということでsをいただいています。

●●委員、aの評価を変えて、sというわけにはまいりませんか。

○●●委員

法人の評価以上に私は判断材料の持ち合わせがないのですが、特に優れた実績を上げているということがここからは読めませんでした。

○山沢委員長

一応松川町との協働、カミツレ研究所、長野市政策コンテストへの参加というようなどころをいろいろ指導してやらせているのではないかと思いますけれども。

○村上課長

学生が2件、起業に至ったと。グローバルマネジメント学科の3年生と、2年生と3年生が一緒になって起業しています。

○事務局

起業はコーヒーショップです。しかも、豆もフェアトレードのものを使って。もう一つは、古着販売のお店です。

○山沢委員長

3年生と、2年生と3年生が1人ずつで、今申し上げたようなことを実際に起業したということですが。

○●●委員

新しいことだと思いますが、どんな起業だったのでしょうか。

○事務局

一つはコーヒーショップになります。コーヒー豆も発展途上国のものを適切な価格で販

売されるフェアトレードの豆を使っています。もう一つは古着販売のお店になります。その二つということですので伺っています。

○●●委員

グローバルマネジメント学科の内容に相当するかどうか分かりませんが。

○山沢委員長

最近の学生の中で起業するほどの気力のある学生はそんなに多くはないので、そういう学生が育っているのは間違いない。それも、多分ソーシャル・イノベーション創出センターの指導の下ということですので、そういう意味ではsの評価ということで賜れませんか。

○●●委員

評価に値するとして、学生がやることにしても、起業なのかどうか、今の説明では分からないですね。継続するんですか。本当に成り立つのでしょうか。

○事務局

中身は調査させていただきます。

○山沢委員長

35については、今、かなり突っ込んだ御質問がございましたので、きちんと調べまして、次回のときに御回答申し上げます。ということで、評価も今は未定としたいと思います。

次は18ページ、36、就学困難な学生への支援ということです。評価は、委員全員aということですので、委員会としてはaの評価としたいと思います。

次は19ページ、37、学生の健康診断です。法人もaとしています。委員もほとんどaですが、コメントのところを見ていただきますと、●●委員が、100%に達していないのを大学としてどう考えているのかと、これは私も同感で、大切なことですが、休学にしている学生7名ぐらいを母数に入れてしまっているとのことで、それならば最初から母数で外せばいいと思うのですが、いずれにしても大学側としては、基本的には100%で、後から保健所等に行き受ければよろしいわけです。

●●委員、これについて少しお話いただけますか。

○●●委員

私もこれはすごく迷ったのですが、大学側からのコメントは、先ほど先生がおっしゃられたとおりで、体調不良で受診を控えた者や休学者を除けば100%となっていて、事情はあるのかなというところで、その後の状況判断もというコメントを入れた上で、私としてはaという判断をしました。

○山沢委員長

コメントをきちんと付けましょう。そういうことで、評価はaとしたいと思います。よろしいですね。

次は38、コロナ対策です。これは委員全員aの評価ですので、委員会としてもaとしたいと思います。

次は20ページ、39、学生のキャリア支援です。初年次教育でインターンシップガイダンスをコロナ禍でやっているわけで、きちんとキャリア支援というところに持っていつているのは立派ですが、その辺、7月までの間にやっているわけですから、時間はあるわけです。

山浦委員から、就職率100%を目指すと書いてあるけれども、現在、内定の状況は何パーセントかということです。

○山浦委員

内定率は、世間と比べてどうでしょうか。

○山沢委員長

また、それも聞いておいてください。

委員会としては、全員aということで、評価はaとなります。

次は40、これもコースの専門性を生かした進路選択を可能にする、そういうことを考えさせるということで、キャリア支援の一つでございます。委員全員aという評価ですので、委員会としてもaの評価としたいと思います。

次は21ページ、41はグローバルマネジメント学科の3年生のインターンシップの問題です。●●委員、コロナ禍において実習方式によるインターンシップのプログラムに取り組まれていることを評価したいというところでよろしいでしょうか。

○●●委員

そのとおりです。大丈夫です。

○山沢委員長

これは委員会としてはaとしたいと思います。

次は42、食健康学科の3年生を対象とした進路希望調査、キャリア支援の取組です。全員aの評価ですので、委員会としてはaと評価させていただきます。

次は43、食健康学科の2、3年次を対象にした臨地実習の話です。これは、全員aで委員会の評価としてaになります。

次は22ページ、44、こども学科の3年生を対象にした進路希望調査の実施です。これは、その後就職ガイダンスや市町村就職説明会を実施したということになっていますが、通常のキャリア支援ということです。評価は全員aですので、委員会としてもaの評価になります。

次は45、こども学科の学生に「こども学ゼミ」を開講して、一人一人の学生にきめ細かい専門指導を行うということです。全員aの評価ですので、委員会としてもaの評価にさせていただきます。

次は、46から「研究」になります。最初に地域課題です。学長裁量経費を活用してということ。評価としては、委員全員aの評価ですので、委員会としても評価aとなります。

す。私が何か偉そうに書いていますが、この後出ている科研費のこともあるのですが、研究というのを長期的に見る人を付けなければいけないのではと申し上げました。

次は47、「複雑化・多様化する課題に対応するため、学問領域を越えた研究や他大学等の共同研究に積極的に取り組む」と。共同して研究する体制をつくっていかうということです。委員は全員aの評価ですので、委員会としての評価もaです。

次は48、学会や学術誌における発表に加えて、県民に向けた研究発表や講演、あるいはホームページなど、具体的で分かりやすい形の情報発信をするということです。これに対しては、委員は全員aですので、委員会としてもaの評価になります。

次は49、長野県に関わる資料を随時収集するという事です。●●委員を除いて全員aです。●●委員、ここの「？」の意味を御説明いただけますか。

○●●委員

年間で43冊というのをどう評価したらすごく悩みました。例えば、県立大が県に関する文献や資料みたいなものを、研究拠点としてアーカイブをどのように整理するかの方針にも関わるのですが、市販されている著書であれば地元出版なども含めてこのぐらいの冊数なのかとったりしつつ、かたや政策分野でのいろいろな自治体の報告書ですとかいろいろな資料というところまで含めると、43冊はどうなんだろうと。

今日（こんにち）ですと、電子媒体なども含めて、場所を取らない書籍もたくさん出たりしている中で、この43冊の収集というところをどのように評価したらいいか判断に苦しみまして、そこを伺ってからにしようと思って「？」になっています。

○事務局

どのような中身か確認します。

○●●委員

前から気になっているんですね。そもそもここで集める必要があるかどうかということからして、県立図書館もあって、ここで集めてそれを目標にしたって。必要なものは集めなければいけないけれども、それは図書館でやればいい話であって、ここで大々的に書いて、長野県に関するものなんて100万冊ぐらいあるんじゃないかと思うんですね。そこは見直したほうがいいと。集めて何の価値があるか、中身がどうか、本当に狭い分野のことも含めてやっているなら意味があると思いますが、そこら辺がはっきりしていないので。

○村上課長

方針が策定されていたので、その方針の中身も含めて調べます。

○●●委員

2、3年前に最初に聞いたのかもしれないけれども。

○山沢委員長

●●委員、今後については、方針等があるならちゃんと聞く、43冊が実際どういうもの

なのかも調べるということも含めて、きちんとしたコメントを付けて、それでaということでもよろしいですか。

○●●委員

●●委員が御指摘されている方針の中身とか目的というところはかなり重要だと思うので、そのあたりの戦略も含めて、何かコメントが入ればOKです。

○山沢委員長

では、コメント付きでaということです。

次は50、科研費の申請です。出席の委員はcということで、●●委員からも厳しいコメントが出ていますので、コメントを付けて、委員会の評価はcとさせていただきます。

次は51、ソーシャル・イノベーション創出センターの件です。CSIが窓口になって、企業から共同研究をいろいろということで、そういう機能をきちんと果たしたということですから。委員会としては、評価をaにしたいと思います。件数も金額も多くないのですが、aの評価とします。

次は26ページ、3の「地域貢献」で、52は、県立大が中核となりまして、企業、大学、県、市町村、金融機関等々で連携するということです。そのための包括連携協定を、長野県教育委員会とKDDIとで結んで、ほかにもいろいろあるということです。委員の評価は、これも、普通のことかなということで、aでございます。

次は53、SDGsを切り口とした事業者支援を大学でやるということです。これもどこでもやっているわけですが、委員全員aの評価ですので、委員会としても評価はaとしたいと思います。

次は27ページ、54、寄付金講座の受入れを進めているということです。●●委員だけbで、あとはaですが、●●委員、御意見をお願いします。

○●●委員

寄付講座があったということを書いているのか、何を言っているのか、よく分からなかったです。

○事務局

寄付講座につながるように努力している段階です。

○村上課長

結びついていないので、努力している段階ということでもよろしいと思います。

○●●委員

なさそうだからbにしました。

○山沢委員長

幾つか候補があるのかということを知りたいのしょうけれども、まだ戦略的に言えな

いのかなと。●●委員、aでもいいですか。

○●●委員

いいですよ。

○山沢委員長

今、●●委員から了解が得られましたので、全員aということで、委員会としてはaの評価としたいと思います。

次は55、CSIを窓口にして、地域の連携ということで、幾つかの取組としてイノベーション塾をやったり、飯山グッドビジネスの支援でアドバイザー・メンバーの知見を生かした支援、保健医療福祉専門職向けの起業塾をおやりになったそうです。評価は全員aですので、委員会としても評価はaとしたいと思います。

次は56、地域連携の一環において、学生が社会貢献活動に参加する機会を設けるということです。委員全員aの評価ですので、委員会としてもaとしたいと思います。伊藤委員から、「目標が、機会を設け参加を促すなので、その点は達成されている」といただいています。

次は57、これは何をやっているかということ、地域に開かれた大学として、CSIを窓口、県、市町村、県内教育機関との連携に取り組んだと。多様な学習の場に教員を派遣したり、象山未来塾で勉強させたりいろいろやろうということです。ピンとこないのですが、法人がsと言っています。●●委員と●●委員はsです。私も●●委員も多分そうですが、例年と同じことしかしていないのでは。

○村上課長

これは大学からsとした理由の回答がございます。一番最初に書いてあります長野県教育委員会との包括連携協定を締結し、それによって「JIBUN 発旅するラボ」が新しい取組になっています。これは当初の計画にない新しい取組であるためにsとしたと書いてあります。

○山沢委員長

そういうことだそうです。県教委と連携を結ぶのは大変ですが、別にそんな新しいことでも。

○村上課長

内容的には、高校生と大学生が交流して、例えばキャンプをやったり、オンラインで講座をやったり、様々な企画を考え議論をしたりという形のようなものです。これは教育委員会の事業としてやっていると思います。これが包括連携協定に基づいた取組ということです。

○山沢委員長

●●委員、これはsでいいでしょうか。

○●●委員

一応大学側の説明を見ると、この「JIBUN 発旅するラボ」の事業構築がニューだという話ですが、私は教育委員会と組むのはかなり大変なことだろうという判断からsにはしてしまいましたが、実際にこの事業構築で何が行われているのかというところや、何を目指されているのかというところが必ずしも明確ではなく、昨年度のコロナ禍でどういうことが進んだのかがよく分からないので、aでも構わないです。

あるいは、もう少し御説明があって、積極的にsにするすごい成果や取組があるのであれば、もう少し大学側の御説明をいただけるといいかと思いました。

○山沢委員長

取組の成果ということでは、一番の成果は包括連携を結んだじゃないとなってしまったのですが、具体的に何をやるかは、この「JIBUN 発旅するラボ」は、こういうことでこういう成果が出たとなればsですが、まだこれからやるんですね。令和3年度にスタートするわけですね。

○村上課長

令和3年5月からです。

○●●委員

提携したということでsと言っているんですか。

○山沢委員長

そうですね。

○●●委員

ではaでいいです。

○山沢委員長

●●委員は。

○山浦委員

特にありません。aでいいです。

○山沢委員長

aの評価とさせていただきます。「JIBUN 発旅するラボ」でいい成果が得られているといいです。

○山沢委員長

あと二つです。58は、象山未来塾です。評価は委員全員aですので、委員会としても評価はaとしたいと思います。

59は、地域コーディネーターが4人いるのですが、その人たちがどれだけ働いているかという話です。評価は全員aということですので、委員会としてもaの評価としたいと思います。

沼尾委員、コメントが入っていますが、これを教えてください。

○沼尾委員

これまでも取り組んでいることですが、やはり地域コーディネーターという制度があって、その中で大学と地域をつなぐつなぎ役の方がいるという仕組み自体はすごく大事だと思いますし、大学でもこういう仕組みを入れているところは必ずしも多くないので、すごくいい制度なので、ぜひ続けてほしいという意味も込めてこのように書かせていただきました。

○山沢委員長

応援のコメントということですね。

○沼尾委員

そうです。

○山沢委員長

そういうことで、ここはいいですね。

あと五つやると4の国際交流が終わりますので、頑張ってやりましょう。それで今日は終わりにします。

次は、4「国際交流」です。60、海外プログラムです。コロナでいろいろ問題が起きている中を切り抜けつつやっているということです。評価は、●●委員がa、●●委員がb、●●委員がa、●●委員がsです。平均するとaになりそうですが、いかがでしょうか。前のところでやった評価と同じにしまして、aということでよろしいですね。委員会としてはaとしたいと思います。

●●委員、どうぞ。

○●●委員

海外プログラムの難しさが強調されていますが、オンラインが普及したことで、逆に海外との連携が実はやりやすくなったところもかなりあります。例えば、開発経済の先生が海外の大学の先生を呼んで1コマだけ授業をやったり、格段にやりやすくなったというところで、他大学と交流したりという可能性は格段に広がったと思います。そこがITをクリアして、条件をクリアするという最初のスタートアップのところは物すごく苦労されたということでsと付けられたと思うのですが、じゃあ、その後のプログラムに関してどういう面白いものをつくったのかというところが見えていない中で、sはちょっと厳しいかなという感じがしています。

○山沢委員長

今のをまとめてコメントに入れてください。

理事長が学生からお金をくれと言われて、そのお金は外国の大学の先生に講演してもらおうお金にすると。海外プログラムをやっている間に、海外の大学の先生と学生のほうが仲良くなって、何か話してくださいと言ったら、先生のほうもいいよと言ったけれども、さてお金というときに、安藤理事長のところに行ってお金をくれと言ったら、安藤さんも喜んでお金を出したと言っていましたので、全くおっしゃるとおりですね。これは評価をaとします。

30 ページ、61、グローバルセンターのことです。委員全員 a の評価ですので、評価は a としたいと思います。

次は 62、日本留学試験センターや日本大学連合学力試験を活用して、減っている私費外国人留学生が減らないように苦労したということを行っています。委員全員 a の評価で、委員会も a としたいと思います。

山浦委員から、どこの国の学生かということですが。

○事務局

香港です。

○山沢委員長

次は、63、留学生の獲得、海外大学との連携です。評価は全員 a ですので、委員会としての評価も a ということとございます。

64、そういう留学生に向けて、日本について学びを深めることができるような資料を収集するということですが、これも 3 冊ですね。評価は全員 a ですので、a にしたいと思います。

山浦委員が、3 冊にどういう意味があるのか、どの程度かと。これは聞いておいてくれますか。

○村上課長

3 冊を追加しているだけで、全体像は見えません。聞いておきます。

○山沢委員長

今はいろいろな媒体があるので、よく分かりませんが、入学した学生が見るためですね。「自然災害等に留学生がスムーズに避難対応等を行い」と。

○事務局

これは別の話です。危機管理資料を作成したとあるので。

○山浦委員

そもそも目標自身がよく分かりませんね。

○山沢委員長

全体としてはグローバルセンターの仕事を、年度計画で四つやっているんですね。それで五つ目ですね。

○山浦委員

「日本について学びを深めることが出来るよう、それに適した資料を収集する」、よく分からないですね。意味は分かるけれども、それが何だということになると、何だっているじゃないかと。

○山沢委員長

本である必要はないですね。

これで、31 ページの 64 まで終わりました。次回は8の「業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置」以降をやります。

○沼尾委員

よろしいですか。2点あります。先ほどの研究のところ、山沢委員長から、研究担当の理事を任命したらどうかということを書いておられて、これは、総括コメントのようなところに入れていく方向で行くのか、これは次回以降検討するということですか。

○山沢委員長

それは断られたんです。どこかに書いてあります。研究担当は採用する予定はないと書いてあります。

○山沢委員長

ヒアリングの回答の50、私が質問しているところです。「現在研究担当理事を設置する予定はありません」ということですから、しょうがないですね。それが1点ですね。もう一つは。

○沼尾委員

今の話ですが、研究担当理事を設置するまで踏み込むかどうかはともかく、やはり研究という枠組みに関して、一定の対応を考えたほうが良いという判断であれば、何かそういうことを総括コメントに入れておくという考え方はあるかと思いました。

ただ、大学自体が特定の専門分野に突出した研究者を入れていくというよりは、むしろ県内の、例えば若い世代の教育や地域との連携みたいなことをするプラットフォームとして大学を位置づけているということだとすると、研究は研究としてももちろん大事で、専門性がなければそういうことはできないのですが、研究特化ということよりは、むしろそういう県のある種の学術的プラットフォームみたいなことを考えるのか。だとすると、それはそれで大事だと思うので、そこと研究を結びつけた形での経営をどうするかということは、考えられていいんじゃないかことは、どこかで触れておいてもいいのかなと思いました。

逆に、科研費のこの状況を見て、これをどう判断するのかは毎年議論になるところなの

で、そのあたりの紐づけをどこかで書いておくといいのかなと感じたのが一つ目です。

○山沢委員長

ありがとうございます。そこは今の言葉を応援と考えて、研究担当理事うんぬんは置いておいて、研究を大局的に見る考え方は必要であろうということは、コメントの中で文章をつくってみますので、よろしくお願いします。

○生駒委員

今の沼尾委員と山沢委員長の御発言に私も賛成です。大学側の考え方は、評価委員会の意見に対する対応として回答すればいいのであって、これは県民も議会も知りたがっていることだろうと思います。ですから、そういう意味でも、大学が考えていないから書かないという諦めではなくて、大学の対応とちゃんと対峙した上で、県民が納得できるような思いになってくればいいわけです。沼尾委員と山沢委員長、これいいと思います。

○山沢委員長

ありがとうございます。

沼尾先生、二つ目をお願いします。

○沼尾委員

今の一番最後の64で、海外からの留学生が日本についての学びを深めることができるよう、それに適した資料を収集するというのが目標になっていて、それで3冊入ってきたということになっているわけですが、この目標だけではないのですが、やはりコロナ禍で、今本当に世の中が目まぐるしく変わっている中で、本を3冊入れたところで、もう若い子たちはみんなSNSで全部情報を取っていくという状況で、大学としての情報提供の在り方が、本3冊置いてどうかという話ではないだろうと。

そう考えたときに、例えば、このウェブページに行けばこういう情報が取れるよという、プラットフォームをきちんと紹介するとか、あるいはここにアクセスすれば、英文の資料が取れるとか、そういう案内役、コンシェルジュみたいなことのほうが大切なのかもしれず、むしろそういうコンシェルジュのような役割を担える人、あるいはそういうことが分かっている人がいるかどうかも含めてすごく大切なのかなと思うと、この資料を収集するということが、相当コロナ禍で、あとデジタルトランスフォーメーションの流れの中で変わってきているかなと。

それは、これに限る話ではないですが、そのほかも含めて、やはりこの目標の在り方自体もこれでいいのかみたいなことについては、コメントとして加筆してもいいのかなと、そういう感想を持ちました。

○山沢委員長

本当にそうですね。64のところは、少し絞った形で、留学生センターとしての情報の収集・提供をどう考えているのかと。基本的にこういう時代は、DXのことを考えると考え直すべきではないかと、あるいは方向性を示すべきだということをコメントでききちんと入れ

たいと思います。その辺の文章を書きますので、ブラッシュアップをお願いします。

○山浦委員

留学生は、今何人いるんですって。

○事務局

5人です。まだ少ないです。

○山沢委員長

1学年で1～2人ですね。

30分ほど時間が延びてしまって申し訳ございません。これで、本日は終了です。次回は、先ほどから申し上げていますように、今回残したものと保留したものの評価と、コメントの整理をきちんとやりたいと思います。何卒、次回もよろしくお願い申し上げます。

事務局から連絡があります。

4 その他

○村上課長

皆さん、長時間にわたりましてありがとうございました。次回の第2回の委員会は、来週7月29日木曜日の10時から開催したいと思います。今回と同じようなハイブリッド方式でやる予定です。

○生駒委員

今日のようなことになるといけないので、事前に接続テストをするということと、事務局に1点確認ですが、私宛てに、「生駒委員からの質問への回答」というのが、昨日の21時18分に送られてきていますが、この中身は参考意見書の対応状況について、私の個人的な質問についてですが、私の質問事項は皆さんに伝わっているのか、このミーリングが私以外の方に行っているのかどうか確認したいのですが。

○事務局

同じメールを委員の皆様を送っております。

○生駒委員

分かりました。対応させていただきます。

○村上課長

そういうことで、次回7月29日、皆様よろしくお願ひしたいと存じます。

では、委員長、最後に締めで何かあれば。

5 閉会

○山沢委員長

どうもありがとうございました。不手際で申し訳ございません。次回はきちんと済ませたいと思います。

ただ、議論の内容は十分濃いもので、ぜひ、金田一さんにもこういうことできてほしいというお話も随分ありましたので、この内容をこれからも維持していきたいと思います。

本日は、どうもありがとうございました。

○一同

ありがとうございました。

(了)